

新規モダリティに関する特許動向や裁判例・特許活用などを分析！
新規モダリティの研究開発と実用化を推進のために必要不可欠な特許戦略の構築について解説！

新規モダリティにおける特許の現状 および特許戦略【LIVE配信】

1名分料金で
2人目無料

◆日時：2024年4月23日(火) 12:30～16:30

◆会場：自宅や職場など世界中どこでも受講可

◆受講料：1名につき49,500円(税込、資料付)

※会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

・1名でお申込みされた場合、1名につき**46,200円(税込)**

・2名同時でお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で49,500円(税込))**

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

☆講師

青山特許事務所 顧問弁理士 加藤 浩 氏

☆趣旨

近年、医薬品の新規モダリティとして、抗体医薬品、核酸医薬品、低分子医薬品・中分子医薬品(ペプチド医薬品など)、遺伝子治療・再生医療などの研究開発が推進され、研究成果が積極的に特許出願されています。また、研究成果の実用化が推進される中、医薬品モダリティの特許活用の重要性が高まっています。このような医薬品の新規モダリティについて研究開発と実用化を推進するためには、特許戦略の構築が必要不可欠です。すなわち、医薬品の新規モダリティに関連する特許動向や裁判例・特許活用などを分析して、最適な特許戦略を推進することが重要です。その結果、研究成果を事業に最大限に活かすことができます。本講演では、このような視点から、医薬品の新規モダリティの特許戦略について説明し、今後の課題と対応策について解説します。

☆プログラム

※都合上内容を省略して掲載しております。詳細はHPをご確認下さい。

1. 医薬品の新規モダリティの現状と課題

- 1.1 抗体医薬品 1.2 核酸医薬品、RNA医薬品
1.3 低分子医薬品・中分子医薬品 1.4 遺伝子治療、再生医療(細胞治療)

2. 医薬品の新規モダリティに関する特許分析

- 2.1. 抗体医薬品
2.2. 核酸医薬品、RNA医薬品
2.3. 低分子医薬品・中分子医薬品(ペプチド医薬品など)
2.4. 遺伝子治療、再生医療(細胞治療)
(ゲノム編集技術、CAR-T細胞療法、次世代遺伝子治療、iPS細胞技術など)

3. 特許を視野に入れた研究開発戦略 <新規モダリティに最適な研究開発戦略>

- 3.1 特許出願のタイミングと注意点
3.2 研究開発に必要な特許調査の注意点
3.3 研究開発戦略と特許戦略の一体化
3.4 生成AIを活用した創薬研究の課題
3.5 今後の研究開発戦略と知的財産戦略の在り方

4. どのような特許を取得すべきか <新規モダリティに必要な権利化戦略>

- 4.1 特許を受けるための要件(医薬品モダリティの研究成果を事例として)
4.2 どの程度の進歩性が要求されるのか(従来技術との比較データなど)
4.3 どの程度の開示(実験データ、薬理データ)が要求されるのか
4.4 広く強い特許とは、どのような特許か
4.5 特許審査への対応(拒絶理由への対応、面接審査の活用など)

5. 特許をどのように活用すべきか <新規モダリティの研究成果の有効活用>

- 5.1 特許ライセンス・M&Aの現状 5.2 ライセンス活動の実務上の留意点
5.3 他社の特許を侵害しない方法 5.4 事業戦略と特許戦略の一体化
(承認薬と特許との対応関係、薬機法と特許法のリンケージなど)

6. 医薬品モダリティと特許訴訟 <最近の裁判例の論点整理>

- 6.1 医薬発明の進歩性の考え方(顕著な効果の考え方)
「アレルギー性眼疾患治療剤事件」最高裁令和元年8月27日判決
6.2 医薬発明の記載要件の考え方(サポート要件、実施可能要件)
「ボロン酸化合物製剤事件」知財高裁令和2年7月2日判決
6.3 医薬発明のクレーム解釈の考え方(機能的クレーム)
「PCSK9に対する抗原結合タンパク質事件」知財高裁令和元年10月30日判決
6.4 医薬品分野の特許侵害の考え方(クレーム解釈)
「二重特異性抗体事件」知財高裁令和元年10月3日判決
6.5 結晶発明の進歩性の考え方(阻害要因)
「微細結晶事件」知財高裁令和5年7月13日判決

7. 医薬品の新規モダリティに関する登録特許の最新事例 <特許審査・審判の徹底分析>

- 7.1 特許請求の範囲の最新事例(新規な有効成分、医薬用途、DDS製剤など)
7.2 実施例は、どの程度、開示するべきか(最近の事例)
7.3 進歩性は、どの程度、要求されるのか(最近の事例)
7.4 諸外国の登録特許の事例との比較(米国、欧州、中国など)
7.5 事例を踏まえた最適な明細書・クレームの提案

本セミナーは「Zoom」を使ったWEB配信セミナーとなります。Zoomを使ったWEB配信セミナー受講の手順

1) Zoomを使用されたことがない方は、こちら(https://zoom.us/download#client_4meeting)からミーティング用Zoomクライアントをダウンロードしてください。ブラウザ版でも受講可能です。

2) セミナー前日までに必ず動作確認をお願いします。はじめかたについてはこちら(<https://www.rdsc.co.jp/files/instruction/zoom.pdf>)をご覧ください。

3) 開催日直前にWEBセミナーへの招待メールをお送りいたします。セミナー開始10分前までにメールに記載されている視聴用URLよりご参加ください。

・セミナー資料は開催前日までにお送りいたします。無断転載、二次利用や講義の録音、録画などの行為を固く禁じます。

『モダリティ特許』セミナー申込書

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

Eメール 郵送

● セミナーの受講申込みについて ●

必要事項をご明記の上、弊社へFAXでお申込み下さい。
弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたしまして受講券、請求書、会場の地図をお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>